

2026年3・8国際女性デー愛媛「世界の女性は連帯する」 ——権利、正義。行動。すべての女性と少女のために。——



日時：3月8日(日) 10:00～11:40
会場：愛媛県教育会館2Fホール(松山市北持田町131-1)

「私は言いたい! 伝えたい!」3分間スピーチ

集会後(13:00～13:30) 大街道一番町口で、ミニ花束を配って
道行く人々へのアピール
ご参集ください。

主催：2026年国際女性デー愛媛実行委員会(Tel 089-924-2485)

■東京電力福島第1原発事故から15年 福島を忘れるな! なくせ原発!

- 記念講演 3月8日(日) 14:00～16:00 愛媛県美術館 講堂
志賀勝明さん(「鈴木安蔵を讀める会」会長、元・ホッキ貝漁師)
「東電福島原発事故から15年 福島の現状」
- 集会&デモ 3月11日(水) 17:30～19:30
城山公園東口(県庁側東堀端) 集会後、松山市駅前までデモ行進
連絡先：伊方原発をとめる会(Tel 089-948-9990)

■安保法制(戦争法)の廃止を求める愛媛の会 第10回総会&記念講演

日時：3月14日(土) 14:00～16:00
会場：愛媛県教育会館2Fホール(松山市北持田町131-1)
内容：第1部 講演会「高市内閣による軍拡の現状」井上正信弁護士(広島弁護士会)
第2部 総会
主催：安保法制の廃止を求める愛媛の会(Tel 089-913-0448)

■あらかぶさんのお話を聴く会～被ばく労働の実態を知ろう～

日時：3月28日(土) 13:30～
会場：愛媛県美術館 講堂(松山市堀之内)
主催：原発さよなら四国ネットワーク(Tel 089-962-7432)

■伊方原発運転差止訴訟 高松高裁・控訴審 第1回口頭弁論

日時：4月21日(火) 14:30 開廷 13:30 高松高裁集合
場所：高松高等裁判所、香川県弁護士会館(報告集会)
問い合わせ先：伊方原発をとめる会(Tel 089-948-9990)

■5・3愛媛憲法集会——平和の広場、記念講演、憲法パレード

日時：5月3日(日/祝) 11:00～
会場：松山市総合コミュニティセンター カメラリアホール
記念講演：青木 理(ジャーナリスト)さん
「高市政権下、どうなる平和と民主主義」
主催：2026「5・3愛媛憲法集会」実行委員会(Tel 089-913-0448)



武井事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。お気軽にお立ち寄り下さい。



生き生き政治ネット
松山市衣山2-4-47、2F
TEL/FAX 089-924-2485
ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp
2026年2月20日発行

ごあいさつ

衆議院選挙が終わりました。政策議論を深める間もない不意打ち選挙で、自民党が圧倒的な議席を獲得しました。さまざまな政策を数の力で押し通すことを危惧します。

選挙終盤、「#ママ戦争止めてくるわ」がSNSで爆発的に拡散されました。改憲の動きを加速し、戦争できる国にするのではないかという危機感の表れだと思います。さて、選挙で終わりではありません。

有権者として高市政権のこれからをしっかり監視していきましょう。県議会報告会にはたくさんの方々にお越しいただき、ありがとうございます。年明け早々熱気あふれる会となり、元気をいただきました。(武井多佳子)



ながえ孝子さん来賓挨拶



県議会報告会



1月12日、コムズ視聴覚室で開催した「武井たか子の新春県議会報告会」に、参加された皆さまからの感想です。

武井たか子さんの県議会報告会に参加して

1月に行われた武井たか子県議会議員の報告会は、始まる前から熱気に包まれていた。初めに発表した男性は、ベネズエラとアメリカの問題に4人しか反対しなかった県議会の現状を憂いた。次に今回の議題である図書館について、奥田さんと渡邊さんからお話があった。渡邊さんの常に人生の傍らにあった図書館への深い想いに感動した。

武井さんのお話は多岐にわたったが、とくに山鳥坂ダムの経緯は印象に残った。武井さんの、大洲の人々と自然への想いに心を打たれた。聴衆者からも医療、原発、土砂災害、駅前開発など様々な問題提起。皆がその道の専門家だ。香害の話ももっと聞きたかった。私の図書資料保存の発表もでき、有難うございました。(近藤 舞)

今回の報告会で最も興味を惹かれたのは、県立図書館(現在改修工事中)の現状だった。実家のある西条市や、かつて暮らした高松市で利用していた図書館はリニューアルされていて、広く居心地の良い場所だった。残念ながら松山に来てからその習慣は途絶えた。数回訪れてはみたものの大人がゆったりと過ごせる空間ではないと感じ、また独立した公文書館がないことも驚きだった。県議会報告会で紹介された「図書館の自由に関する宣言」は4項目からなり、国民の知る権利を守る強い意志が込められている。求める情報が自由に収集できることは勿論、老若男女が学びと憩いの場として気楽に利用できる身近で魅力的な図書館・公文書館のある暮らしをしたいと強く思った。(溝淵 由理)

* * *

今日、市の道後支所で投票を終え、車に乗ろうとしたら、武井さんから電話で、先日の議会報告会の感想を書くよう依頼されました。

コムズの会場では、多くの参加者が集まり、活気がありましたね。

図書館の問題では、他所の詳細な情報が報告され、参加者からは貴重な意見も寄せられ、私自身たいへん勉強になりました。それにしても、県の図書館に対する長年の取り組みは、まことに粗末というべきですね。

また、今回は、一昨年夏に急逝された西原博之さんの遺稿集の本『愛媛で生き、書いた一記者 西原博之』を「西原博之さんを偲ぶ会」の実行委員会メンバーで昨年夏に出版しましたが、武井さんのご厚意で会場で販売してもらいました。ありがたいことで、ご家族にも報告致しました。武井さんは県議として常に孤軍奮闘ですが、多くの仲間のバックアップがどんとありますね。4月には松山市議選が控えていますが、これを読んでいる皆さん、体調に気をつけ「働き」しましょう。(2025年2月2日記) (松田 孝雄)



2025年生き生き政治ネットの活動と収支を報告させていただきます。お一人お一人の個人カンパに支えられ充実した活動につながっておりますこと、心より感謝いたします。

生き生き政治ネット 2025年度会計報告

(2025年1月1日～2025年12月31日)

(単位：円)

収入		支出	
前年度繰越	529,846	人件費	709,040
会費・カンパ	492,500	備品・消耗品費	225,443
武井特別会費	1,500,000	事務所費	496,977
		組織活動費	56,565
		機関誌発行費	385,821
		調査研究費	11,674
		次年度繰越金	636,826
合計	2,522,346	合計	2,522,346

会費・カンパをありがとうございました。

2000円を超えるカンパにつきましては、確定申告などの際、寄付金控除の対象となります。

生き生き政治ネット 2025年度活動報告

- 2/11 「武井たか子の県議会報告会」の開催
- 3/29 学習会「公文書館ってなあに？」講師；大本敬久さん 松山市民会館第3会議室
- 9/23 「みんなで語ろう 私の気候危機」コムズ会議室2
- 10/25 生き生き政治ネット政治カフェ「コロナについて語ろうVI」コミセン第3会議室
- 11/30 「福島みずほさんと語ろう いま、国会はどうなっているの？」コムズ視聴覚室
- 愛媛県議会定例会（年4回—2月、6月、9月、12月）の傍聴の案内
- 「武井たか子の県議会報告」の発送（年4回）
- 「生き生き政治ネット通信」発行（1/20 4/25 8/25 11/15 年4回）
- 「生き生き政治ネットメール通信」で情報発信（適宜）
- 小冊子『こんな駅にしたい』（JR松山駅高架化を考える会）の刊行（3/1）
- 読書会『資本主義は私たちがなぜ幸せにしないのか』ナンシー・フレイザー著（第4水曜）
- 松山市駅前街頭宣伝 「県議会報告」の配布（第4金曜日夕方）
- 生き生き政治ネット世話人会 月1回開催

※今回、郵便振替用紙を同封させて頂いています。ご無理のない範囲で結構です、当会への会費（年間1000円）・カンパのご支援をよろしく願います。

図書館訪問記 その1

岐阜市立中央図書館



みんなの森 ギブメディアコスモス

ひとり旅の折、その土地の図書館を訪ねることが楽しみの一つです。昨年11月に岐阜市立中央図書館を訪ねました。

岐阜市が今の市立中央図書館を建設したのが2015年の7月ですから、ちょうど10年を迎え、次の10年のために市民ワークショップを基にした新たなステップを踏み出したところです。

この建築物についてはホームページ等でご覧になっている方も多いかと思いますが、岐阜県産の木を使った格子天井が高く柱が少ないからか、広々とした空間が従来の図書館のイメージを払拭するものでした。天井や屋根の設計で耐震化を図り、近くに流れる長良川の地下水を空調に利用するなど環境に配慮したそうです。

この建物は図書館だけではなく市民の交流拠点として建てられましたので、名称は「みんなの森 ギブメディアコスモス」です。

1階には文化の拠点と絆の拠点として、市民活動交流センター、多文化交流センター、スタジオ、ワイワイテラス、こどものへや、ホール、ギャラリー等があり、片隅には小さなコンビニ、別にスターバックスの建物が併設されていました。正面から左に丸く突き出しているところです。

子どもの声OKの図書館

正面玄関のエスカレーターで2階に上がったところが、知の拠点としての図書館です。

特に目を引くのがグローブと呼ばれる笠のような屋根で、大きいもので直径7~8mくらいあります。親子のグローブ、文学のグローブなど各部門ごとにあり、設計者は、自由に開放的な雰囲気と温かさを表現したそうです。

また、親子・子どものエリアがあり、子どもの声は未来の声、図書館は静粛な場所ではないというコンセプトは、従来の図書館像を覆すものです。

私が訪れたのが遅い時間だったため、親子連れには会えませんでした。夕方から夜は中高生でいっぱいでした。しかし、彼らの占める場所から離れると声など苦になりません。静粛さを求める人は、従来からあるJR駅そばの別館が朝9時から夜9時まで開いていて、そちらを利用するそうです。



図書館内部

岐阜市と市民が一緒に作った交流の場

新図書館のプランは、2004年に岐阜大学医学部が移転し、跡地利用について検討がされたことに始まります。岐阜市は、市民の要望を踏まえて「市民活動・交流機能」と「協働社会の推進機能」を複合した施設、との方針の基に議論を重ねたようです。

1958年建設の岐阜市立図書館は老朽化しており、市民の期待は高かったと思います。設計者のコンペには70名の応募があり、2011年の公開審査は、600名のホールがいっぱいだったそうです。設計が採用された伊藤豊雄はこの後、世界的に評価の高いプリツカー賞を受賞しています。

2021年5月には、この図書館の約70m南の正面に、18階建ての岐阜市役所新庁舎が開庁しています。図書館のある「みんなの森」との間に広場を設けたり、西側に並木の遊歩道と小川を作ったのは、市民の憩いと交流の場を意識したものでしょう。(岩倉 浩元)

追記ですが、愛媛新聞の1月25日(日)「本と学びの導き手 学校司書と愛媛」という香川華代記者の記事を是非一読ください。とても良い記事ですが、ショッキングです。

司書の待遇や給与の低さ、とりわけ学校司書は教員免許がないと採用されないなどの問題は、愛媛県だけではないと聞いています。これは国と地方自治体の教育予算の貧困ですね。人口減少を憂い子どもは宝だと、どの顔で言ってるのかと思います。せめてわが愛媛県はこの破廉恥な実態から抜け出さないと、「まじめ愛媛」が愛のない国になってしまいます。